

日本におけるアイスホッケーの普及の現状と課題に関する研究

～施設管理者への調査を中心に～

スポーツ社会学ゼミナール 1316020 黒田隼人

1. 研究動機・研究目的

アイスホッケー競技はアメリカでは盛んに行われるスポーツであり、プロリーグであるNHL(ナショナルホッケーリーグ)は北アメリカにおいては、4大プロスポーツリーグの一つに数えられている。近年他のスポーツに押され人気低迷しつつあるものの、日本が参加するアジアリーグの平均観客数が約1000人、少ない日は500人であることと比べると、人気低迷しているとはいえ、毎試合2万人弱の観客が集まる人気スポーツであることは間違いない。

ホッケーリーグの観客動員数の差をみてもわかるように、日本国内におけるアイスホッケーの知名度は低く、東京都でアイスホッケー競技を部活動として行っている高校は数えられるほどしか存在しない。日本国内において低迷を続けてきたアイスホッケー競技であるが、近年女子アイスホッケー日本代表がソチオリンピックに出場したことで以前よりも注目されつつある。アイスホッケー競技が日本の野球やサッカーのような人気スポーツへ変化するためにはどうしたらよいだろうか。そこで本研究ではアイスホッケー施設管理者へのインタビュー調査をもとに、アイスホッケー普及の現状と課題を検討することとした。

2. 研究方法

インタビュー対象者は、60メートル×30メートルの国際規格のスケートリンクの管理者のH氏である。本施設は、日本のアイスホッケー、フィギュアスケート文化の貴重な発信基地のひとつである。

本研究では、アイスホッケーを普及させるための課題とは何か、アイスホッケーを普及させるために施設で取り組んでいる事柄はあるか、当該施設だけでなく、アイスホッケーを普及させるために重要であると考えられることは何か、の3点を中心に施設管理者へインタビュー調査を行った。

3. 主な結果と考察

H氏はアイスホッケーを普及させるための課題として第一に、練習環境の改善をあげている。アイスホッケーを幅広く国民に、プレーできるキッカケや入口を身近にすることは、アイスホッケーを日本に普及させるために最も重要な項目である。アイスホッケーを普及させるために施設で取り組んでいる事柄として、H氏の施設では、生涯スポーツとしてのアイスホッケーを振興させる為、競技力の向上や団体・選手の育成指導に力を入れていた。ア

アイスホッケーの普及において、アイスホッケーがプレーされるスケートリンクがこのような取り組みを行い、スケートリンクの周辺地域を盛り上げることは非常に重要であるだろう。今後は、他のスケートリンクとも連携して行き、市内さらには県内にアイスホッケーを広め、アイスホッケーを知る、プレーする機会が増えると良い。

2点目に、アイスホッケーを普及させるためにはプロスポーツチームであるアジアリーグのファンがチームを支えることが重要であるとH氏は述べていた。しかし、ファンに金銭面のバックアップを施設やリーグ側から求めることはなかなか難しい。おそらく、ファンの人たちに応援したいと思ってもらえるようなチームを作り上げることが重要なのではないだろうか。アジアリーグを運営する側はその土台となる観客の呼び込みをするべく、観戦者意識や観戦者のニーズを反映した運営やプロモーションを行い、アジアリーグそのものを発展させていく必要がある。

4. 結論

今回、スケートリンクの施設管理者に直接話を伺ったことを中心に、アイスホッケー競技を日本で普及させるためにはどのような現状があり、改善すべき課題があるのかを検討した。施設管理者の話から、サッカーや野球のように学校のグラウンドで練習ができず、練習ができる時間や場所が限られていることがアイスホッケー競技の低迷の1つの大きな理由であることがわかった。練習時間が限られてしまうため、選手たちが日中に練習をしたくてもできない状況が現在の日本のアイスホッケー環境である。

アイスホッケーの競技人口の維持及び増加が課題である。この現状を打破するために、調査対象の施設においては、アイスホッケーをプレーできるキッカケや入口を身近にするために、スケート教室を催していた。アイスホッケーがプレーされるスケートリンクがこのような取り組みを行い、スケートリンクの周辺地域を盛り上げることは非常に重要であると考えられる。アイスホッケーの競技人口を増やしていくためには、アイスホッケーの面白さを知ってもらい、観戦の機会を増やすことが必要である。そのための方法はいくつかあるが、日本の競技レベルを上げることで認知度の向上が現在のアイスホッケーには重要である。

5. 卒業論文の執筆を終えて

今回私の卒業論文を完成するにあたって、対象である施設管理者のH氏との対話を基にさせていただいたのだが、約1時間30分にも及ぶ会話を聞きながら文字に起こす作業が非常に大変だった。しかし、文字に起こすことでH氏の心境や熱意など深く見ることができた。また、日本では未だマイナースポーツとされているアイスホッケーを普及させるための要因が到底安易に改善できるものではなく、施設管理者に話を伺うにも苦勞したが、どのようにして普及させようと思いを重ねるうちにアイスホッケーというスポーツをより深く知り一層好きになった。これからは一ファンとしてアイスホッケーの普及を見守り、携わっていきたい。